



まもなく創業100周年！

日本板硝子株式会社

日本板硝子(株)は明治開国から50年後、大正7年(1918年)に大阪市において日米板硝子株式会社として誕生致しました。創始者、杉田興三郎が大正3年に製ビン技術を導入する為に渡欧し、帰途アメリカに立ち寄りリビー社の板硝子製造工場を見学したのが始まりでした。

そして1920年に福岡県においてリビー社の助けを得て生産を開始致しました。1931年に現在の日本板硝子株式会社へと変更致しました。

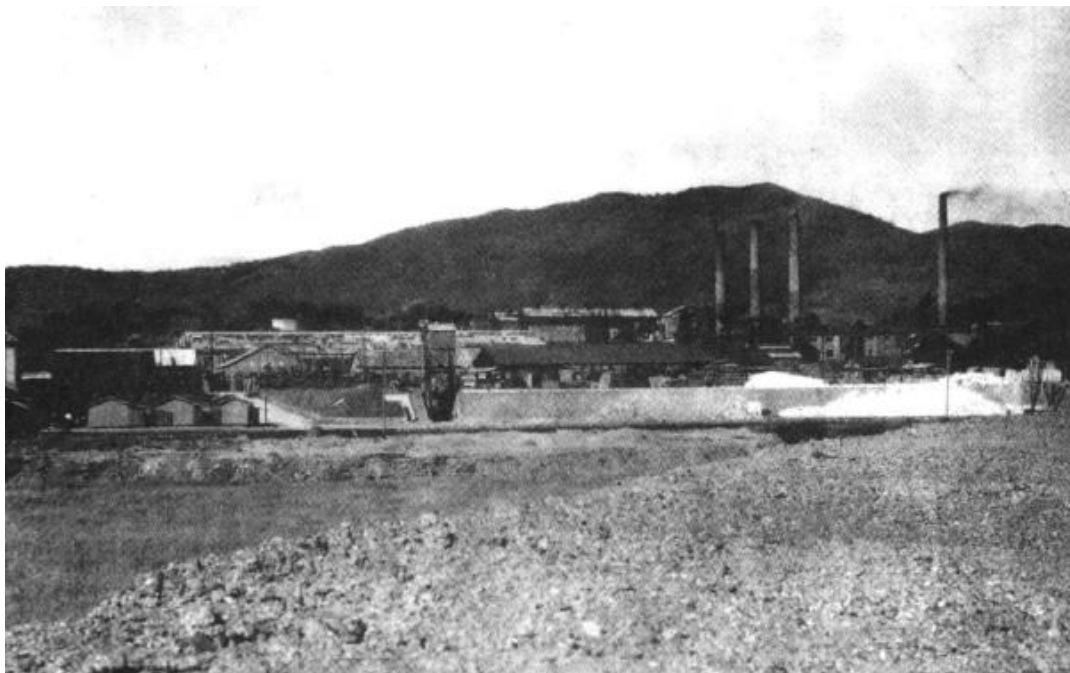
大正末期～昭和初期は世界で製法転換が行われ当時世界最大の生産国であったベルギーは日本・アジアへ大量に輸出しておりましたが、この頃には日本も世界生産第3位を争うまで成長して参りました。

終戦後には社会・経済の復興が進むにつれて板ガラスの需要が急激に増え、1951年に現在の当社主力工場である舞鶴工場を建設し、高度経済成長時代の自動車用安全ガラスの需要にも対応して参りました。

その他にも書ききれない程の色々な事、また2006年にはイギリスのピルキントン社の買収があり現在に至っております。

社歴を調べて行く過程で、諸先輩方のご苦勞があり今日の我々があると改めて痛感致しました。我々も歴史の1ページとなるような仕事をして参りたいと思います。

以上



創業当初の写真